

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子」
 ○自ら課題を見つけ、解決に向けて根気よく取り組んでいこうとする子を育てます。(知)
 ○自他のよさを認め、思いやりの心をもって、共に生きようとする子を育てます。(徳)
 ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます。(体)
 ○地域社会のために自らができることを考え、実践しようとする子を育てます。(公)
 ○様々な人や団体とのコミュニケーションを通じて、お互いを理解し合える子を育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈言語能力〉
〈問題解決・課題解決〉
〈情報活用能力〉
〈自分づくり〉

具体化した資質・能力

○相手の思いを受け止めて、聞く力
 ○問題を捉え、解決する方法を見出し、実行する力
 ○伝える内容を明確にする力
 ○伝え合うことで自分の考えを深める力
 ○協働的に行動する力 ○自分らしさを発揮しようとする力
 ○願いや目標をもち、生き方を追求する姿勢

中期取組目標

目指す子どもの姿
 ○子どもが自ら「問い」を見出し、課題解決のために主体的に学び、互いの考えをつなぐ学習を通して、見方・考え方を広げ、学ぶ楽しさややり遂げる喜びを実感している。
 ○多様な価値観や背景をもつ集団の中で、互いの考えや意見を認め合いながら学校生活上の問題、まちや社会の課題を解決していくことで自分自身を成長させている。
 1年目:各教科において言語活動を充実させながら、授業の中でペアやグループ、学級全体で子どもたちが伝え合う活動を楽しんでおり、共に関わり合いながら学ぼうとしている。
 2年目:互いに関わり合いながら主体的に伝え合うことで、自分の考えを深めていく力をつけている。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①子どもが自ら学習に取り組んでいけるよう個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を目指し、自己調整力の向上につなげる。②研究を通して対話的な学びをより進めていき、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。③積極的に課題解決型学習を取り入れ、児童が自ら問題意識をもち、学んだことを生かす場を創っていくことで、子どもの主体的な学びを促す。
担当	重点研究推進

学力向上に関わる本校の状況

昨年度の取組では、生活・総合的な学習の時間の校内研究を中心に、子どもが学びを楽しむ姿を目指してきた。実際に生活場面で学んできたことを生かしていく場をもつことで、基礎基本の大切さを実感し、学びを進めていくことができるようになってきた。自分の思いを表現しようとするための力を高めていけるようになっていきたい。

今年度の目標

主体的・対話的で深い学びの展開

目標を実現するための具体的行動プラン

①生活・総合的な学習の時間を中心とした学んだことを活用していく力の向上。
 ②学習タイムの有効な活用。
 ③全体の授業力の向上(授業を見合う機会創出)

上半期

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①異学年交流を実施し、相手を思いやる気持ちや自己有用感を育てる。②人権標語を学級ごとにつくり、振り返る機会を適宜設けることで意識付けを行い、学校全体で人権を大切にする風土をつくる。③みどり支援学校との交流や児童会活動を工夫して実施し、様々な人とのより良い人間関係の基盤を培うようにする。④子どもたちの人権を守る視点から、教職員の言動や行動を振り返る機会を設ける。
担当	保健・人権部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる本校の状況
 本校の児童は、自分の思いはあるものの、それを素直に発信したり、明確に伝えたりすることが難しい傾向がある。また、自己中心的に物事を捉えたり、周りに流されたりして、事実をもとに判断する力が弱い。
 そのため、対話をする機会を重視し、思いや考えを安心して発信したり、他者の考えを受け止めたりすることができるようにしていくことで、子どもの自己肯定感を高めていく。

(2)これまでの学校の取組
 ・みどり支援学校との交流
 ・人権感覚を養う全校集会(人権週間)
 ・人権目標を学級ごとに作成
 ・ペア学年での異学年交流

今年度の目標

かかわりを大切に、ともに思い合う。

目標を実現するための具体的行動プラン

・対話の機会を意図的に設け、自分の思いを発信することや他者の考えを受けとめることを習慣化する。
 ・ペア学年での活動を通して、それぞれの学年の役割を果たすことで自信を高める。
 ・学級で決めた人権目標や学級目標を、日常的に意識して過ごす。

上半期

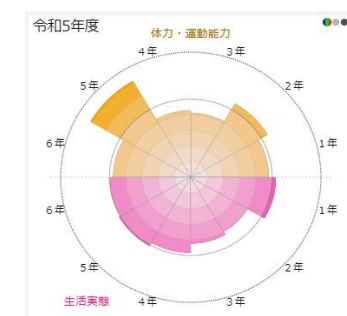
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①学校保健委員会では「右側通行」をテーマに、けが防止や安全な登下校に対する意識を高めるようにする。②体育の授業における安全管理や場の設定等、基礎・基本の確認や共有をするために、メンター研のみに限らず全職員で実技研修を定期的実施する。③感染症流行拡大防止のため、手洗いの励行やハンカチを身につけることを目指すようにする。④体育の授業を通して、ルールを守り助け合って運動を楽しむ、勝敗を受け入れられる
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

健やかな体に関わる本校の実態(R5年度新体カテストの結果より)
 体力・運動能力について、今年度の新6年は、市平均を大幅に上回っているものの、ほとんどの学年が、各項目において、市平均を下回っている。特に反復横跳び、長座体前屈においては、下回っている学年が多い。握力、上体起こしは力強さ、反復横跳びは俊敏さが低いことが推察される。



今年度の目標

楽しく学べる体育授業の実現(体づくり運動の充実)と健康に対する意識の継続

目標を実現するための具体的行動プラン

・メンター研を中心に、教職員が動いたり考えたりする研修を通して、体育授業の充実を図る。
 ・資料等を共有し、いつでも、どこでも、誰でもある程度行えるような、学習資料の共有を進める。
 ・児童が健康に対する意識を継続的に持てるように、児童保健委員会や学校保健委員会の充実を図る。

上半期

下半期